

ミニトマトの栽培について

令和5年1月24日
美馬農業支援センター

- 1 土づくり (1 a : アール=100m² 10m×10mのイメージ)
 - ・排水の良い耕土の深いほ場を選ぶ。
 - ・遅くとも1か月前までに完熟堆肥等の有機質を施用する。
(例：1 aに200kg程度施用)
 - ・土壌酸度 (pH) を調整する。(例：1 aに苦土石灰を10kg施用)
- 2 定植準備
 - ・施肥は定植10日前までに行い、十分耕うんしてうね立てをする。
(土壌水分に注意)
 - ・基肥の施用例 (1 a)
窒素成分で 1.2kg リン酸成分 2kg 加里成分 1.2kg,
 - ・畦幅・株間
1条植えなら 株間45cm 畦幅 1.5m
2条植えなら 株間45~50cm 畦幅 2.3m
 - ・シルバーマルチをする。
- 3 定植
 - ・第1花房が開花する前後の苗が適期である。
 - ・定植前に植穴や鉢へたっぷり水をやる。
 - ・晴天時に鉢土の表面が見えるくらいの浅植えとする。
 - ・マルチ穴を土でふさぐ。
 - ・第1花房を通路側になるように揃えて定植する。
 - ・支柱に誘引する。
- 4 かん水
 - ・定植時にたっぷりかん水し、その後はしおれなければ、かん水はできるだけ少なくし、根の発達を促進させる。
 - ・2段開花までにしおれが見られるときは、再度株元にかん水する。
 - ・第3花房開花期から徐々にかん水を増やす。
- 5 追肥
 - ・追肥は、かん水を兼ねて、3段開花開始時期から始め、7~10日間隔で施す。
 - ・3段開花前に樹が太らない、または葉色が濃くならないときは早めに追肥を行う。
 - ・1回あたりの施肥量は、チッソ成分で0.1~0.2kg/1a程度とする。
 - ・草勢が弱い場合は、メリット青400倍液等を葉面散布し、草勢の回復に努める。

6 芽かき, 誘引, 摘花, 摘葉

- 芽かきは早めに行い, 1本仕立てにする。(花房直下のわき芽は遅れないように)
- 3段目以降の花房について, 1果房30~40花に摘花する。
- 5段花房開花期以降, 展開葉16~17枚程度を残し, 下葉からこまめに摘葉する。
- これらの処理は晴天時に行う。

7 ホルモン処理

- 1花房中に4~5花開花したら, トマトトーンで処理する。
使用時期: 開花前3日~開花後3日位
濃度…低温期(20℃以下): 50倍, 高温時(20℃以上): 100倍
回数…1花につき1回
- 他の花や生長点・新葉にかからないように注意する。

8 病害虫防除

- 排水を良くし, チッソ肥料の過剰な施用, 過剰かん水を避け過繁茂を防ぐ。
- 多湿にならないよう風通しを良くする。
- 黄化葉巻病対策(タバココナジラミ防除対策)
成虫の侵入を防ぐため, 開口部を0.4mm目合いのネットで被覆する。
シルバーマルチ, 乱反射シート・テープで成虫の侵入を防止する。
成虫捕殺のため, 粘着資材をハウス入り口や内部の茎先端より10cm程度上に設置する。
- 農薬の使用基準, 使用上の注意事項等を遵守し, 早期防除に努める。
- 「ミニトマト」は農薬の適用上, 収穫物が直径3cm以下のものを指す。

9 高温対策(ハウス)

- 35℃以上の高温により着果不良, 日焼け果, 着色不良果, 裂果等の生理障害が出る。
- 30℃以上にならないよう, 5~9月頃に遮熱資材をハウス上面に被覆する。
ネット等の被覆資材とハウス上面に吹き付ける遮熱塗料が発売されている
(3a程度のハウス1棟で数万円かかるが, 被覆資材は繰り返し使用可能。)
遮光率の高い資材(寒冷紗等)は長時間の被覆は避ける。
- ハウス周囲からの温度上昇を防ぐため, 周辺の緑化や通風なども検討する。

10 裂果の原因と対策

- 急激な土壌水分の変化
乾燥状態の後, 降雨などで浸水し土壌水分が多くなったときに発生する。
排水に注意するとともに, 極度に乾燥させないようにかん水につとめる。
マルチや敷わらなどの効果が高い。

11 病害虫

- 葉かび病・疫病・灰色カビ病
- マメハモグリバエ, アブラムシ類